

国語 第4学年 冬の楽しみ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、季節を表す語を身近な経験と結び付け、音・色・動きなどの違いが伝わる文にする。行事を知っているかだけで評価せず、語を選んだ理由を確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「冬の楽しみ」 教材名「冬の楽しみ」

2 単元の目標

様子や気持ちを表す語を増やし、季節の様子を表す文の中で使うことができる。伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①様子や気持ちを表す語を増やし、季節の様子を表す文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直している。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

季節を表す語を身近な経験と結び付け、音・色・動きなどの違いが伝わる文にする。行事を知っているかだけで評価せず、語を選んだ理由を確かめる。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

身近に見聞きしたものを、見たこと・聞いたこと・感じたことに分ける。独自例「風が吹いた」と「冷たい風がほおをかすめた」を比べ、付け加えた語が何を伝えるか説明する。経験がなければ教師が示す資料の観察で書く。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。おおむね満足できる状況は、伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○季節の語を身近な経験や資料と結び付ける。冬の空気や音などから印象に残った特徴を選び、触覚や聴覚を表す語を比べる。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○様子を伝える文章を書く。読み合って説明の足りない部分を直す。評価：思①（発言・学習記録）

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直すことができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」

【めあて】季節を表す語を身近な経験と結び付け、音・色・動きなどの違いが伝わる文にする。

予想される児童の反応：・色だけでなく動きを表したい。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」

様子を伝える文章を書く。読み合って説明の足りない部分を直す。

観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・色だけでなく動きを表したい。

・同じ寒いでも場所によって感じが違う。

・友達の言葉から別の場面を想像できた。

指導上の留意点：身近に見聞きしたものを、見たこと・聞いたこと・感じたことに分ける。独自例「風が吹いた」と「冷たい風がほおをかすめた」を比べ、付け加えた語が何を伝えるか説明する。経験がなければ教師が示す資料の観察で書く。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。

想定するつまづき：季節の語を並べるだけで見た場面が伝わらない、経験していない行事を経験として書く。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直している。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・友達の言葉から別の場面を想像できた。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

